

故時子山和彦教授著作目録

共著：『ターンパイク・モデル——多部門最適化モデル』（筑井甚吉他との共著）
 経済企画庁経済研究所・研究シリーズ第28巻 昭和48年

共編著：『現代経済学の新展開』（美濃口武雄，武隈慎一との共編著）有斐閣
 昭和60年

主要論文：

- 「選好理論の展望」『一橋論叢』 昭和42年1月
 「日本経済の有効成長径路」『一橋論叢』 昭和42年11月
 「最適成長と産業構造——ターンパイクモデル」
 内田忠夫他編『近代経済学講座・計量分析編3』有斐閣 昭和43年
 「日本経済の有効成長径路——再考」『経済研究』 昭和43年7月
 「二部門モデルの一類型」『一橋論叢』 昭和43年11月
 「Efficient Paths of Accumulation and the Turnpike of the Japanese Economy」(With Y. Murakami and J. Tsukui), Applications of Input-Output Analysis(Carter, A. P. and Brody, A. Eds.), North Holland 1970年
 「最適成長とパズ」『一橋論叢』 昭和46年3月
 「Relative Stability in Two Types of Dynamic Leontief Models」(with Y. Murakami). International Economic Review, 13 1972年
 「最適成長の諸理論」
 荒憲治郎他編『経済学2：厚生経済学』有斐閣 昭和50年
 「Structure of Trade, Production and Development」(With Y. Kobayashi and Y. Murakami), Advances in Input-Output Analysis (Polenske, K. P. and Skolka, J. V. Eds.), Ballinger 1976年
 「消費者物価指数理論の展望」『経済研究』 昭和53年1月
 「ディヴィジア指数について」
 『昭和52年度物価指数研究会報告』総理府統計局 昭和53年
 「指数算式の選択と裁量的所得」
 『昭和53年度物価指数研究会報告』総理府統計局 昭和54年
 「わが国貿易構造の転換点」『一橋論叢』 昭和54年4月
 「購買力平価の計測」

- 『昭和 56 年度物価指数研究会報告』総理府統計局 昭和 57 年
- 「物価と流通コストの理論的把握——情報論的接近」
流通問題研究会編『流通効率化と公共政策』 昭和 57 年
- 「情報と流通」
流通問題研究会編『情報化時代における流通構造』 昭和 59 年
- 「消費者物価指数と世帯類型」『一橋論叢』 昭和 60 年 7 月
- 「パティニクレイ型成長モデルの動学的特質——シミュレーション分析」
(鈴木興太郎との共著) 美濃口武雄, 時子山和彦, 武隈慎一編
『現代経済学の新展開』有斐閣 昭和 60 年
- 「流通市場の評価パラダイム」 「情報ネットワーク型流通システムと市場機構」
宮沢健一編『高度情報社会の流通機構』東洋経済新報社 昭和 61 年
- 訳書:
- K. ランカスター『数理経済学』(鈴木興太郎との共訳) 好学社 昭和 46 年
- W. レオンチェフ『経済学の世界』日本経済新聞社 昭和 49 年